



**実践的な創発の場で
自分の可能性を再発見**

川上 地域の企業と連携して実践的な課題解決に取り組むPBL(Project Based Learning)の授業は面白かったです。学部学生時代にもありましたが、学びの深度がまったく違いました。「警備会社のブランディング」をテーマに社員から話を聞きながら解決策を考える回で、私のチームはプロモーションビデオを活用する広告戦略を提案。一分野に特化した知識では太刀打ちできなかったのですが、興味関心もバツクグラウンドも違うメンバーと互いの知識を生かして一緒に解決を目指すのが楽しかった。こういう現場目線を学生のうちから経験できるのは、創発科学研究科の強みだと思います。

古島 私が所属する持続共生社会創生ユニットは、人々が豊かな人生を送れる「持続可能な社会」をつくるためにどうするべきか、解決すべき社会問題とは何かを探る学問分野です。複数のユニットが参加する授業もあり、特に、社会の「ユニバーサルデザイン」を紹介し議論を深める「ユニバーサルデザイン開発論」の授業が印象的でした。様々なユニットの学生が、それぞれ別の角度から意見を出し合え、分野が偏らずひらめきが生まれやすい「創発の実践」の場でした。

國土 私は「四国危機管理プログラム」の授業で、徳島大学や社会人学生と一緒に実習も行いました。地図を使って災害状況を把握し、避難所を適切に管理する実践的な内容で、とても興味深かったです。防災の現場では、現地で

知るとともに、迅速かつ正確な情報把握にテクノロジーが欠かせないことも実感しました。

川上 私は将来、オフィス家具の設計開発をしたいと思っています。家具の中でも特に機能を重視する最先端分野だし、ユーザーも多様性に富んでいるところが面白いなと。今ちょうど修士論文に取り掛かったところで、いろんな分野の授業で学んだことをどう組み込んでいくか、自分なりに調べながら試行錯誤しています。

國土 学生時代はずっと防災を学んできましたが、行政ならともかく、一般企業で防災を主業とする会社は少ないのではないのでしょうか。ネクストプログラム(P.6・P.25)にも参加して、被災地でのボランティア活動を通じて現場を学ぶ機会も得ましたし、防災士の資格も取りました。身につけた学びを生かして、企業で危機管理や防災に取り組む人材になりたいと思っています。

古島 私は大学院で学んでみて、大学職員として「学生目線」を意識することの重要性を改めて感じました。自分が経験して初めて気づいた点も多く、それらは今後の仕事に還元するとともに、サービス全体の質の向上につながりたいと思います。今の私は、社会人目線を少し離れて、自分の視野を広げていく段階。大学院を修了しても学ぶ姿勢は持ち続けたいです。社会はテクノロジーの力で人間の想像を超えた速度で進化してきましたが、私もそれに負けないスピードで進化していく人材を目指します！



大学院
創発科学研究科
のHPIはこちら▶▶▶

DIVISION OF SCIENCE FOR CREATIVE EMERGENCE

大学院創発科学研究科

目指せ、イノベーション人材

AIMING TO BECOME INNOVATER



多様性に満ちた環境が
フレキシブルで刺激的

川上 創発科学研究科へ進学したのは、分野横断的にプロダクトデザインの学びを深めるため。つくり手がデザインとエンジニアリングを学び、理解したうえでものづくりを行うことで、モノにおける意匠と性能の新しい関係性を築くことができ、今までにない良いものをつくることのできるのではないかと考え、この考えのもと日々勉強をしています。両方学べる環境は、優れたものづくりを模索するには理想的だと感じました。

國土 創発科学研究科では危機管理学の修士号を取得でき、それが全国の大学院の中でもユニークだと感じました。防災やリスク管理の学びは学部と共通するところもありますが、一緒に学ぶ人たちは同じ興味を持ちながら一人ひとり違う視点や経験に裏打ちされていて刺激的。特に社会人と一緒に学ぶ機会が増えて、新しい目線で物事を見るきっかけになりました。

古島 私は香川大の職員で、まさに学び直すために大学院に入った社会人学生です。社会人学生に対するサポートが手厚いのも、創発科学研究科の特長ではないでしょうか。先生方は私たちの意見も柔軟に取り入れ、細かくケアしてくれて、社会人も学生たちと平等に学ぶチャンスを得られるサポートがあります。初めて学ぶ分野も多いため「大学院レベルの理工系の授業にはついていけなかも」と不安もありましたが、丁寧なフォローのおかげで頑張れています。逆に、社会人経験があるからこそ理解しやすい部分もありました。

一つの分野に偏らない発想や視点が 社会のさまざまな課題解決につながっていく



危機管理学ユニット

國土 真希 (こくど まき)
香川県出身

小学生の頃にテレビでみた東日本大震災の被災地映像を「怖い」と思ったことが防災に興味を抱いたきっかけ。創造工学部の学びに加え、更に実践的な研究を深めたくて大学院へ進学。被災地でのボランティアなどにも熱心に参加し、積極的に知見を広げている。



持続共生社会創生ユニット

古島 愛 (ふるしま あい)
徳島県出身

香川大で20年来働いている大学職員。社会人として経験を積み、仕事を通じて成長する中で、「総合的な学びの楽しさ」は学生時代ならはなかったと気づき、上司や周囲の応援に背中を押されて1年休職。社会人学生にオープンな創発科学研究科で学び直す道を選んだ。



エクスペリエンスデザイン&
アートユニット

川上 吉平 (かわかみ きつぺい)
岡山県出身

香川大の創造工学部でプロダクトデザインを学び、分野横断的な環境に惹かれて「ここでしか学べないことがあるはずだ」と大学院に。建築から家具へと興味の軸が移り、今はオフィス家具の設計開発が目標。社会のさまざまな人が仕事の場で使う身近なものを「デザインする側」になりたい。